

西緑地が楽しくなる本

『おきなぐさ』

宮沢賢治／原作 島谷晃／画

サンブライト出版



うずのしゅげを知っていますか。

うずのしゅげは、植物学ではおきなぐさと呼ばれますが おきなぐさという名はなんだか あのやさしい若い花をあらわさ

ないようにおもいます。

そんなふうにご宮沢賢治に言われると、ふーん、確かにそうだなあと納得してしまいます。やわらかな銀の糸をまとった黒繻子のような花びらは、どう見ても翁という名にはふさわしくなく、若い女の子を思わせます。それに黒い花びらは、日に透かして見ると燃えるように真っ赤に見えるのです。

うつむきがちに咲くこの花を、きっと宮沢賢治も大好きだったのでしょね。

しばらくすると、花はすっかりふさふさした銀毛の房にかわりまです。すきとおった風がやってくると、うずのしゅげは光って、まるで踊るようにふらふらと飛んでいってしまうのです。

緑地のお花畑に植えたおきなぐさは、土があっていたのか日あたりが良好だったのか、ずいぶん株が増えました。もうすぐ花びらも、名前の由来の翁のようなしゅげ(?)に変わります。

暖かい一日、本を持って行って、花に話しかけながら読んでみましょう。きっと賢治の世界が立ちのぼってくることでしょ。

(小川)



オキナグサの種



緑地のオキナグサ